

## 1 総括についての評価

年度目標に対して研究所全体で様々な取り組みを進めてきたことが理解できました。情報機器などの設備に関する問題や、学生の授業やプロジェクトによる多忙さなど課題はあるが、それについての反省や対応策を知ることができました。関係者、保護者としては大変満足しているので、デザイン教育研究所の良さを更に外部へ周知できればよいと思います。

## 2 年度目標ごとの評価

## 【安全・安心な教育の推進】

## 学校園の年度目標

○ 教室における講義中心の知識偏重ではなく、企業・団体・他大学などと連携し、現場の声を直接聞きながら、実体験としてリアルなデザインの仕事の流れ、問題解決の難しさを学ぶとともに、個人で課題を進めるだけではなく、積極的なコミュニケーションを通じた学習で、社会で役立つ問題解決能力を身につけさせる。

○ 「世界自閉症啓発デー」等に取り組むことにより、障がい者を含む全ての人々の社会的、経済的及び政治的なインクルージョンを通じて、不平等を減らす姿勢を育成するとともに、生徒一人ひとりが「自分を大切にすること」の意義を理解し、自分のことを深く知ることによってVUCA（ブーカ）の時代を生き抜く力を育てる。

不要な機器の廃棄やWi-Fi環境の整備が進んでおり、学生たちは、安心して明るい学校生活を送れているという実感を持っていることが学校アンケートから窺えた。

校内のトイレについては、和式トイレが多く、洋式トイレへの移行が必要である。

奨学金業務においては、奨学金申請に関するトラブルはなく、円滑な運営により学生が経済的な面で安心して学校生活を送ることができていることが分かった。

## 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

## 学校園の年度目標

○ プロジェクト学習や学校行事等での様々な経験を通して協働する姿勢を育成し、コンセプトワークや企画書の作成・プレゼンテーションのノウハウ、言葉遣いやマナーなどのビジネスコミュニケーションを身につけさせ、ビジネススキルを高める。

○ 教師や講師からの一方通行的な授業ではなく、アクティブラーニングにより、他者との協働や外界との相互作用を通じて、自己の考えを表現できる力を育てる。また、ICT等を活用して学生の興味・関心を引き出す授業を進める。

中之島小中一貫校の学校シンボルマークや、大阪市立天満中学校のコミュニケーション促進教材開発など、外部から依頼を受けて行うプロジェクトによって、特色ある学校づくりが行われている。また、学生においてもその実感を得られていることは学校アンケートからも読み取れる。

課題やプロジェクトによる学生の疲弊という問題があるが、カリキュラムにゆとりを設けるなど、反省や対応策が講じられていることを理解した。

## 【学びを支える教育環境の充実】

## 学校園の年度目標

○ ICTを効果的に活用し、これまでの実践とICTを最適に組み合わせることにより、教育の質の向上をめざすとともに、現代社会の著しい科学技術の進歩による急激な変化に対応した「社会に開かれた教育課程」の開発を進める。

○ HPでの情報発信をはじめオープンキャンパスや入試説明会、学校訪問による広報活動を強化することにより広く本研究所の取り組みを周知し、大阪市内だけではなく大阪府や他府県のデザインに興味がある高校生の進学先として認知される活動に取り組む。

今回、一般の入学者選抜で定員を満たさなかったことも踏まえ、高校訪問ではその高校出身の在校生と一緒に学校説明を行うことを勧める。また、繋がりのない学校にも広報は必要である。来年度は進路部を新設し、高校への広報活動がさらに充実することが分かった。

教員間での連携した指導について、前年度と比較すると大きく改善されているが、やはり今後も取り組むべき課題である。

就職状況においては、前年度と比較すると改善されており、在校生の就職内定の早期化は一定達成されたと分かった。来年度カリキュラムにおいても、キャリアデザインや職業指導等の充実が図られており、就職内定の早期化に取り組む姿勢が見られた。

## 3 今後の学校運営についての意見

デザイン教育研究所が今まで取り組んできた教育実践を全教職員で情報共有を行い、共通理解のもと指導にあたっていることが、学生や保護者をはじめ周辺地域にも感じられるよう丁寧に取り組みを進めていってほしいと思います。